

# グラントハイツ返還から50年

## これまでも、これからも みんなで育てるまち

# 光が丘

豊かなみどりに恵まれた光が丘。米軍宿舎だったグラントハイツの返還から今年で50年を迎えます。区民の皆さんとともに成長してきたこのまちの歴史を振り返ります。

問合せ 広報係 ☎5984-2690

### 光が丘の歴史

- 農村** 昭和初期 「上練馬村」と呼ばれる農村
- 成増飛行場**
  - 18年 約80世帯が立ち退き、成増飛行場が完成
  - 19年 成増飛行場から特攻隊が出撃
  - 20年 8月15日終戦
- グラントハイツ**
  - 22年 ケーシー(啓志)線が建設①  
練馬区が板橋区から独立
  - 23年 米軍宿舎「グラントハイツ」完成②
  - 34年 横田基地などへ米軍宿舎の移転が始まる  
ケーシー線が廃止  
グラントハイツ返還運動が始まる
- 返還運動**
  - 39年 区長が都知事にグラントハイツ解放を要請
  - 43年 米軍が返還に同意
  - 44年 「光が丘」と命名
- 跡地利用計画**
  - 47年 第一次返還(現むつみ台団地周辺)
  - 48年 9月30日、全面返還  
むつみ台団地の入居が開始
  - 56年 光が丘公園が一部開園③
- 光が丘パークタウン**
  - 58年 光が丘5丁目目入居が開始④  
光が丘清掃工場が稼働
  - 61年 光が丘総合病院が開院
  - 62年 光が丘IMAなどが開設
  - 平成元年 光が丘区民センターが開設
  - 3年 都営地下鉄12号線(現都営大江戸線)  
練馬駅～光が丘駅が開通
  - 6年 光が丘地区区民館が開館  
光が丘体育館が開館
  - 7年 光が丘図書館が開館
  - 12年 都営大江戸線が全線開通
  - 22年 小学校8校が統合し、4校(光が丘四季の香小、光が丘春の風小、光が丘夏の雲小、光が丘秋の陽小)が開校
  - 28年 四季の香ローズガーデンが開設
  - 令和2年 光が丘IMAがリニューアルオープン
  - 3年 光が丘清掃工場を建て替え  
四季の香ローズガーデンがリニューアルオープン
  - 4年 練馬光が丘病院が移転⑤

### 医療と介護の複合施設が開設

7年度の開設に向け、練馬光が丘病院跡地に病院(157床)を含む医療・介護の複合施設を整備します。

### 都営大江戸線が延伸

光が丘から大泉学園町への延伸が計画されています。今年3月、都は副知事をトップとする庁内検討プロジェクトチームを設置し、スピード感を持って検討を進めています。



光が丘のこれから



**光が丘の特徴**  
光が丘公園(約60ヘクタール)や点在する区立公園のみどりが最大の魅力です。中心部には、駅や商業施設、公共施設、病院などがあり、良好な住環境が整っているまちです。

電柱がなくて空が広く感じます！

## 光が丘地域の皆さんに伺いました！

### パスポートを見せて遊びに行った

鳥海隆秀さん



私は終戦の年に生まれたので成増飛行場の頃の記憶はありませんが、両親の話によると田柄一丁目にある掩体壕(空襲から軍用機を守るための施設)まで、近隣の住民が軍用機を引いて行ったそうです。成増飛行場は特攻隊の出撃基地になっていて、明日出撃する特攻隊の方があいつつ来たという話なども聞きました。

敗戦で飛行場が接収され、グラントハイツを建設するときにうちの土地も提供させられました。今の光が丘公園陸上競技場の辺りに鳥海家の墓所があったのですが、墓所のままグラントハイツに吸収されてゴルフ場になったようです。



敷地内には1,200世帯の住宅のほか、学校や映画館、教会、プール、野球場などがあり、入るにはパスポート(通行証)が必要でした。スミスさんという軍曹夫妻と親しくなり、よく遊びに行きました。電気洗濯機が回っている大きな音に驚いたことを思い出します。

### 新しいまちに女性たちの力で風を起こす

富永愛子さん・芹澤考子さん



団地の建設前から光が丘の近くに住んでいました。グラントハイツの跡地は草が生い茂り、こっそり入って子どもたちを遊ばせたことがあります。雑木林は野犬の棲家になっていました。光が丘に越して来たのは昭和60年代の初めです。「アパートメント否！国際美術展が丘展」を成功させたのは平成2年のこと。これはアパートメント廃絶を訴えて世界中を巡る現代美術の展覧会で、全く経験のない主婦たちで実行委員会を立ち上げて開催しました。そしてこのときのノウハウを活かして12年間続いたのが、光連協(光が丘地区連合協議会)の方々から受け継いだ「光が丘フェスティバル」です。ふれあいの径で行っていた夏祭りで、地域の女性や学生ボランティアが中心となって運営しました。振り返るといつも手探りでしたが「大丈夫、できる！」と前に進めたのは、仲間がいたことと「何か新しいことができそう」という力が光が丘にあったからこそだと思います。

### さりげなく支え合える地域でありたい

NPO法人むすび代表 齋藤真美さん



光が丘地域の方たちがこのまちで安心して暮らせるよう、さまざまな家庭の困りごとをサポートしていきたいという思いから始まったのが私たちの活動です。訪問介護など介護全般に関わるもののほか、産前産後の育児サポートや家事援助、講演会を開き、地域の方たちが集い交流できる場を提供しています。人気の麻雀教室では、育休中のお父さんがお子さんを連れて参加したことがありました。お子さんと2人、家にじっとしているとストレスがたまるのでしょうか。赤ちゃんが泣くと育児経験のあるほかの参加者の方が見てくださったりして、お父さんは麻雀を楽しんでリフレッシュして帰られました。こうした地域の結びつきこそが私たちが育みたいこと。特別なことではなく、さりげなく支え合える団地内の居場所でありたいと思っています。何かあっても外へ目を向ければ、必ず誰かが助けてくれることを忘れないでください。

### 「光が丘」の由来

地名は公募により選ばれました。当時の練馬区のタイトル「緑と太陽」や、武蔵野の面影を残し、みどり豊かな台地だったことにちなんでいます。ほかに「緑が丘」「緑台」「青葉台」「若葉台」が候補でした。

整然としたまち並みの中にみどりやお花がたくさんあります！

「春の風」「夏の雲」「秋の陽」「四季の香」4つのゾーンに分かれています！

### 光が丘で育ち、光が丘で子育て

鈴木里奈さん



生まれも育ちも光が丘で、人生の大半を光が丘で過ごしています。みどりが多くて、買い物できて、温かい人たちがばかりで大好きなまちです。小さいとき、家族や友人とお祭りに行ったのが思い出です。結婚して一度、光が丘を離れましたが、子育てをするならやっぱり光が丘がいいなと思い、戻ってきました。実家が近いので、両親と一緒に子育てを楽しんでいます。同世代の子育て仲間とも交流の輪を広げていきたいです。娘が幸せに過ごせるように、活気あるまちであり続けることを願っています。

鈴木さん・娘さん(中央)、ご両親(左右)

### 広々とした団地になった理由

当初、国の計画では2万3000戸を建設予定でしたが、学校や病院の不足が課題とされ、区の要望により1万2000戸に決定しました。量より質を重視したつくりになっています。

練馬区情報番組「ねりまほっとライン」でも光が丘の特集をご覧になれます



YouTube「練馬区公式チャンネル」

参考資料:加藤電吾「光が丘学」、住宅・都市整備公団「光が丘パークタウン 街づくり20年のあゆみ」